



福島の子どものための保養施設「沖縄・球美の里」で甲状腺検診を受ける子ども。沖縄・球美の里では協力医師による子どもたちの甲状腺検診もおこなっている。2015年  
Photo by Ryuichi HIROKAWA

## 特集 福島の小児甲状腺がん

福島県「県民健康調査」検討委員会「甲状腺検査評価部会」

# 小児甲状腺がん 「多発」認める

福島原発事故後、福島の18歳以下の子ども約37万人を対象におこなわれてきた小児甲状腺検査の「先行検査」<sup>※1</sup>で、ことし3月末までに小児甲状腺がんの「悪性ないし悪性疑い」とされた子どもは112人。

2巡目に当たる「本格検査」<sup>※2</sup>では、新たに15人の子どもが同じ診断をされた。

医師らにとっても予想外の結果だった。そして5月18日、「県民健康調査」検討委員会は、福島の子どもの小児甲状腺がんを、事故前に比べて「数十倍のオーダーで多い」との「甲状腺検査評価部会」のまとめを発表した。国や県はこれまで、必死に小児甲状腺がんの「多発」<sup>※3</sup>「事故との因果関係」を否定し続けてきた。

しかし今、専門家たちの一枚岩が揺らぎ始めている。

文／おしどりマコ（本誌編集委員）

写真／おしどりケン（同）、広河隆一（本誌発行人）

Text by Mako OSHIDORI, Photo by Ken OSHIDORI, Ryuichi HIROKAWA / DAYS JAPAN

※1 子どもたちの甲状腺の状態を把握するのを目的に、1巡目の検査として2011年10月に開始。対象は約37万人、2015年3月末までに約30万人の検査結果が確定した。

※2 子どもたちの甲状腺の状態を継続して確認するのが目的。二巡目以降の検査を指す。

※3 2010年時点の福島県の18歳以下の小児甲状腺がんの有病者数と、2011年以降の先行調査の結果を比較すると、数十倍増えているという意味。

### 資料①

2015年7月6日 参議院行政監視委員会  
生活の党と山本太郎となかまたち 山本太郎

DAYS JAPAN 7月号（発行 株式会社デイズ ジャパン）より抜粋（P.16-P.26）  
山本太郎事務所作成資料